



サカタニ友の会 ニュース  
 発行者  
 株式会社サカタニ  
 西条サカタニ  
 ファミリーマート  
 サカタニ京阪七条店  
 〒605-0993  
 京都市東山区日吉町222  
 (七条こころ坂)  
 Tel. 075-561-7974  
 URL [www.sosake.jp/](http://www.sosake.jp/)  
 E-mail [info@sosake.jp](mailto:info@sosake.jp)  
 月刊 発行員新聞  
 編集 酒谷 義郎  
 E-mail [yosirou@sosake.jp](mailto:yosirou@sosake.jp)

## 自然界のクーデター

過でこの地球という星で、大い言う動物が現在の姿になったの知らないが、現在はこの星の支配者の様な位置に、大はるる今や、他の星も行き帰り出来、近い将来、移住が出る能力が持てる様だ。  
 特に今世紀は、更にこの環境の素晴らしき発展で、子供でも、自分、世界の人々を直接に繋がる事が出来る様になった。他の動植物だけでなく、空間も支配下にし、人類は王者になった。



や地球王者の人類を憐れさせている。  
 この蟻は、今、世界中が最も侵入を警戒する種の一つ。日本の環境省、外来生物法の規制対象種、特定外来生物に指定しているが、今まで、日本に侵入してはなかったが、その強い増殖力、分布拡大能力で、人類も深刻な生態的多を負う。その上、胡麻程の大きさの蟻だが、人が刺されると、最悪は死亡すると、水際の駆除対策が取られている。果たして欲望の赴くままに、発展してきた人類に、それが出来るだろうか？「ハムレット」のセリフを借りれば、それだ！問題だ！

前戦争の敗戦で、平和憲法の下。素晴らしい経済大国になった。自国の資源は少ないが、輸入し、加工し、輸出をして、経済競争の勝利者になった。あらゆる部門の経済競争の勝利は、たまたが、資源の殆どは輸入している。その輸入に、クーデターを起す形で強敵が現れた。それは、国家でも、商社でもない、**毒蟻** **ロアリ**だ。繁殖力が強く、小さくて、どこにでも隠れて、伊賀・上野の忍者より手強い集団が運ばれて来て、クーデターを起したのだ。

原始時代の人類も、大きな竜の様な動物にも耐え、闘いながら、健気に彼らは、クーデターを起したのだらう？、今に至る人類歴史で、劣るが、人間同士で殺し合った、幾つもの戦争経験。更に、万 一の場合、モット被害が莫大に、**原産の毒蟻** **ロアリ**が、クーデターを起し、今、**原産も動いている日本**だから、過剰な心配は、無用と思ふが、蟻の穴は大堤防を壊す。大丈夫だろうか！

念のため転記  
 ☆ヒアリに刺されたら？  
 20〜30分程度、安静にし、体調の変化がないか注意すること  
 人によっては容体が急変すること  
 があり、その場合は病院ですぐに治療が必要だ。また、ヒアリを発見したときは、素手で触らないのが大事。熱湯をかけて駆除する方法もあるが、まずは、  
 ☆近畿地方環境事務所野生生物課、保健所、警察へ連絡を！  
 同事務所 TEL  
 06・4792・0706

主催：京都府の京都府戦没者追悼慰式の要式改定報告「平和を願い戦争に反対する京都戦没者遺族の会様」から届きました。  
 ☆開催日時：平成29年10月11日  
 ☆場所：国立京都国際会館で、催の詳細は後日。此処では要式の変更のみ致します。  
 ☆これまで「追悼戦没者」は、極一部を例外除き、**軍人軍属のみで、京都府内の空襲や艦砲射撃や、徴用で軍事工場勤務者は対象から外れて居ました、私共の近くの「馬町空襲爆死者」等も、昨年、府に要望、ヤツと70年も経った今年から悼対象者になりました。**

第3日曜日開催日6月18日(定例：朝9時)

## 第150回：朝粥食べておしゃべり会

ご講演：岡山栄子さん：報告者) 山本知弘様



楽々ホールで、お粥を地元の生ゆずを使っ食前に話をお聞きの方々を使っ会でした。

本日の講師は、有有限会社「the.mike」代表取締役岡山栄子様。テーマは「千年前から継承！日本のゆずの健康法！」。岡山さんが、お住いの箕面は、実は知る人ぞ知る「ゆずの里」であり、その大部分が、実生「みしうゆず」です。実生ゆずとは、木ではなく種から18年かけて育てられ、やっと収穫できる希少なゆずで、大粒で豊かなその香りは素晴らしいものです。自分の力で成長し、木自体に力があるから、ゆずが、ゆずの美しさも、ゆずの味しさも、あります。岡山さんは、この地元の生ゆずを使っ、笑顔のとても素敵な岡山さん、は、この素晴らしい活動を続けて欲しいと心から思った朝粥会でした。

毎月七日：恒例：七条大橋をキレイにする会  
 ◎日時 七月七日 金  
 ◎集合：七条大橋 東詰南  
 作業時間 AM9時〜10:30  
 ◇掃除用具・手巾・雑巾・小さいスコップ等  
 各自持参等持参ください。  
 ◇終了後 集西条  
 サカタニ  
 時間程お茶を飲み反省会  
 写真：酒谷力中  
 フリーパッドお二人さん

▼私、その祖母の亡くなった83歳だ。運うんと言ふ字、運ふとどと緒、運ぶのは、身体と心のおぼやちゃん」の音が、耳に残るが、自分行きまへん。待つて

て、スキンケア商品を開発されました。そのスキンケア商品は当然、ゆずの香りがするのですが、なんと、その香りにはリラックスだけでなく、体の不調、認知症予防、ストレスが蓄積した脳の慢性疲労にとっても役立つそうです。岡山さんはスキンケア商品の加工作業で障がい者を雇用されているのですが、加工作業でゆずの香りを嗅ぐので、障がい者の方にもいい変化があったそうです。  
 講演中は驚きばかりで、そのお話に皆さん聞き入っていました。講演中にスキンケア商品のサンプルを皆で使ってみただけで、首の周りに少し塗っただけで、さわやかなゆずの匂いが仕事の疲れを吸いれたような気がしました。笑顔のとても素敵な岡山さん、は、この素晴らしい活動を続けて欲しいと心から思った朝粥会でした。

めんこい 2017年7月号が第1子発行14年経て、今号は2子になりました。配布は友の会会員様(年会費要限定ですが、他のお方は、ネット検索・サカタニとんからりん)で、覧いただけます。



# なんた坂 こんな坂

前号より少し時を遡るが、その現在地は、一軒の家屋だった。西側は、当時借家で、酒屋、酒場、スペース有るを営んでいた。東隣の志摩看板店が引越、後を購入、昭16年に建替え、**写真左側** 酒場部門をここに分離。



一番番頭 新吉(本名今堀幸平・実家、馬町)を祖父の姪と結婚させ、夫婦に酒場の店を任せた。が、新婚直後に、目が弱く兵役免除だった彼も、兵隊に招集、更に中国で戦死。祖母は、嫁を実家に戻して、自らが、主で 国民酒場営業。空襲が激しくなった昭20年3月頃迄続けた。(後、閉業)

サイ、島玉砕後、昭20年1月15日、米軍機に、東山区馬町が爆撃を機に、五条堀川、お池通等が、強制疎開で壊され、更に学塾疎開が始まり、酒場も戦時廃業で閉鎖。祖父は、広島付近の炭坑工夫に徴用され、肺を侵され、京都に戻ったが終戦直後9月1日58才で没した。私は、学塾疎開で、(先祖が住み暮地も有る)宇治の山奥で、宇治のチベツトとも言われ山村、炭山から夏休で終戦で、家に戻っており、祖父の死水を取った。祖父は、58才で、苦しむせず、灯が消える様に、穏やかに亡くなった。生前、お前は酒家家14代目、店を継ぐのやで〜と、幼児の私

を酒蔵に連れて呉れ、利き猪口の酒の香りを嗅がせ、後、酒に指を突っ込ませて、利き酒をさせ、感想を聞き、常に、よく利いたと褒めて呉れた。動物園へも再々連れて呉れ、と優しい。お事ちゃんだった。

敗戦後は、祖母が主になって、酒場営業を、昭24まで続けた。時節柄酒は貴重品だった。戦後や落ち着いた翌年から、父は戦前に、お取引のあった滋賀県の酒蔵から、直接に闇で、酒を購入し、アテ用食品も粗末な物しかなかったが、お客さん等が食材を調達して呉れ、続けられた。戦後、米軍に指導、酒、醤油等々が配給申込みを沢山抱えた店のみ許可される仕組みが度移入され。その結果、私共の学区は12店舗になった。酒屋は、半休業状態で、父は、商事会社役員を兼業、日本の超貧しい時代だった。

## 稲荷山 ぶらり散策記 ③ 越智重史



今回は、伏見稲荷山界わいに、ふさわしい内容で行きたい。



JR 稲荷駅を下車して本町通を右手にレンガ造りのランプ小屋を見ながら南下すると斜めに横切る感じで奈良線の踏切がある。この踏切の手前東側に直達橋十二丁目がある。

## 黙っていいの？

石動敬子 2017.6

考え、てみた。政治、この政治を黙って支えてきたのね。税金、介護保険料、国民健康保険、府市民税、NHKの受信料、etc. 言われるままにせよと払い込んできました。思ってもみなかったけれど、日本人ほど従順な人種はいないんだそうです。上に立つヒトに対してこの上なく良質で安心な日本人。前「傲え」右に「傲え」という号令で見事に隊列を整え、お上絶対」に染まってきたのです。それが道徳、人としての道でしたから。そういえばお隣の国は？何かにつけて議論が大好き。譲らぬ光景ケンカ腰」の迫力には恐れ入るほどです。同じようにお米食べる民族でもキムチの国。負けてません。先ごろの大統領の疑惑にもあれよあれよという間にレッドカラー

できないことが増えました。民主主義という原則以前のルール破りが増え、とかく秘密裡になりまして。お友達」でこそこそです。嘘も方便ならいいけど、嘘八百アンフエアです。民意」という願いがスルーされ、集会、デモ、チラシ、署名の効力が意図的に無視されたしました。あんな人がトップで、こんな人が辞めさせられたり、引っ張られたり、という構図」にいよいよ奇立つこの頃です。選挙も、争点」は良きような公約ばかり。その上何か美味しいもんとかいたいたた「イエス」マンよろしく、自然に「要を投じる」となるのです。うか。お金に弱い日本人は。だから選挙後は「万歳」「万歳」です。なにが儲かるからですね、多分。かつての戦勝さながら選挙の勝利」に湧き、支持率」という数字の自信で勝手に強行採決の国会になったのです。

明治11年(1878)当時の東海道建設のため、御前町から現在の地に移されたという。御前町であるからJR 稲荷駅あたりに有った」のであろう。浄土宗の寺で慶長13年(1608)建立である。地蔵堂に祀られる腹帯地蔵(地蔵菩薩坐像、1.2メートル)は典型的な平安時代の寄木造りと推定され、銘文のうち最古のものは、平安末期の墨書といわれている。大仏所大進法眼 6条東洞院仏所勅願寺 文明7年6月18日と記してあるとのこと。人通りの多い本町通りにあるお寺なので良く目立っている。寄棟造りの地蔵堂は前の扉が開かれていて気軽に参りが出来るのが良い。夏の各町内のお

地蔵さん」では撰取院の住職に毎年お参りいただいている。町内にとってもなじみ深いお寺である。余談であるが、車で走っているとこの踏切を斜めに横切るので、本町通はこのあたりで曲がりくねっているように思うが、撰取院の前に立つて通りを南北に眺めるとまっすぐである。現在は奈良線であるが明治11年(1878)には東海道線として建設された。大工事であつたらしく、稲荷地域の様子も一変したという。この撰取院も移転を余儀なくされているが、個人のお宅も相当数が移転している。この踏切をさらに南下すると本町通の直達橋十二丁目の十字路東北角に、是より3丁ぬりこ地蔵」の



# 京都&東山 ぶらりピカリ

74

## 七条通・ 地味だが京都の通り

御所が有り、葛城山に通りがある。

七条通は、その一つ。東山 阿弥陀ヶ峰(頂上に豊臣公墓地有り)裾から西に。通りには、東・西本願寺があり、JR京都駅、鴨川東岸に京阪電車七条駅。西の中央卸市場の近くに、水族館と鉄道博物館がある。京の東西に通りの中で、アクセス良い通りだが、三・

四条通に比して、人通りやお店も少ない。が、最近、七条 梅小路」にJR山陰線の新駅工事が始まった。雪見過つてはを涎を流し羨ましく思っているが、ハイこたが、ハイこたまでよ♪になるだろう。



駅建設中七条通梅小路

更に数年先はなるが、過つて東山七条に有り、西京区大原野に移転した「京都市立芸術美術大学」が、塩小路橋」付近の崇仁小学校跡地に戻つて来る。数年前、七条大橋架橋百年橋渡る会」に「参加下さった門川京都市長様に「崇仁小学校に、芸大移転後の」計画」をお尋ねした。対して市長様は、JR京都駅から、10分の好立地。隣接地に「音楽堂、公会堂、美術館」と、更に、鴨川東岸の東山区の観光を視野に入れ、考えたいと仰つた。

た。序でに七条大橋の「照明塔」復活を言いたかったが、気の弱い私は咽元で止めた。

過つて芸大の西京区へ移転は決まった当時、京都女子大学も、同区に移転するらしいとの噂も有り、所属している七条鴨東商店街の役員の数人と、現場」を見に行つた。が、こんな交通の不便な所へなんでや！」と思つた。京都女子大学は「ダランド」にして、今も使われているそうだが、芸大は、学校毎移転された。やはり広くな長い視線で見えるべきだったのかなと思つた。

私は、(友人親族等の墓参り序でに年)に何度か將軍塚へ行く。その時、頂上から京都盆地を眺めると、三方に山脈」が有り、中央に川鴨川」西に「保津川」世界で二つとない大邸宅に見える。そこには、杜寺仏閣や骨董品、それを護る優秀な職人さん始め、百万を越える人々が、生活を営んでいる。先の戦争で、他都市と比べると幸運にも「かすり傷」程度の被害で終戦を向えた。



將軍塚から北西を眺めた京都市内

は「お詫び」今号の「とんからりん」PCの不調も有つて、作成が遅

# 市電が走った 京都を巡る

77

福田静二



飛鳥井町を出た市電は、東大路通を南下します。比較的静かだった町並みにも両側に次第に店舗が増えて、賑やかになって来たことが感じられます。車窓から注意していますと、左手に石畳の参道があつて、その向こうに大きな寺院建築が見えてきます。これが知恩寺です。1331年、悪病が流行した際に、法然上人が百万遍の念仏を唱えて祈願し、悪病を防いだとされます。現在の知恩寺では、毎月一回の手作り市や、十一月の古本市など、さまざま

路通を南下します。比較的静かだった町並みにも両側に次第に店舗が増えて、賑やかになって来たことが感じられます。車窓から注意していますと、左手に石畳の参道があつて、その向こうに大きな寺院建築が見えてきます。これが知恩寺です。1331年、悪病が流行した際に、法然上人が百万遍の念仏を唱えて祈願し、悪病を防いだとされます。現在の知恩寺では、毎月一回の手作り市や、十一月の古本市など、さまざま



子供たちや女性のスタイルに昭和を感じる百万遍

まなイベント会場として、市民にはなじみの深い寺になつています。そして今出川通が見えてくると百万遍に到着です。東大路通と今出川通の交差点を百万遍と呼び、住所表示には現れない通称地名と言えますが、市電・市バスの停留所名だけでなく、広く施設や商店の名称として用いられている、馴染み深い停留場名です。ここでは東山線(東大路通)から今出川線へ曲がる渡り線があります。今出川線を走つて来た1系統はここで曲がつて東山線へと入り、これまでの6号系統に加えて、東山線はぐつと本数が増えることとなります。

この百万遍の名は、先述の知恩寺の百万遍の念仏に由来するものです。知恩寺は、現在では、それほど広い寺域ではありませんが、明治初期の地図を見ると、現在の百万遍交差点の東北はすべて寺域で、その由来も納得できます。さて百万遍といえば、言うまでもなく京都大学の所在地として広く知られています。東南角には京大の石垣と校舎があり、カラフルなタテカンが歩道上に並び、交差点付近は学生たちの人波が絶えません。

私にとって、市電と百万遍との思い出と言へば、やはり団塊の世代だけに、大学紛争の時代にさかのぼります。昭和四十年代前半、京大も紛争が続いていました。「カルチエラ」と称して、市街戦が繰り広げられたのが百万遍交差点でした。ある時、全共闘の投

# 百万遍交差点を渡る 22号系統の市電



げた火炎瓶が誤つて自分の衣服に燃え移り、学生が火だるまになつて、逃げ惑う写真がありました。その背後には、足止めされた市電の姿のあつたのがいまも記憶に残っています。いまの百万遍は、学生たちで賑わい、さまざま業種の商店が立ち並び、活気のある交差点になつています。その分、天下の京都大学の門前交差点としては、いささか品格に欠ける風景になつていような気がしてなりません。

編集者蛇足 この市電が走っている時代、祖母と二人で、左京区吉田中道路町に住み、鳥丸車庫」近くの立命館高校に「⑥系統」の市電で通学。写真の②系統は壬生車庫の管轄で、電車は今出川で通で左折するので、京大の「天皇事件」や「破防法反対」で騒がしい頃でした。福田さんの文で、60年も昔の青年時代と祖母を思い出しました。



# 何んた坂 とんからりん

戦後(後昭(24)年、順調スタートした酒類卸業が、本欄は、改めて「自伝」の心算で記しているのをご了承戴きたら、今や八三歳だが、この「とんからりん」入力も、裸眼で入力している。両眼共「」。

個人商店「酒谷本店」は、外交員も増やし、協和発酵や菊正宗、明石市の江井ヶ島酒造等の仕入先に恵まれ、好業績だった。父は、当時、木屋町四条下にあった高級バー「おそめ」の常連。祇園にも「女」を囲い、その繋がり、京女近くに有った、中村錦之助さんの邸宅にも、酒を納入していた。卸酒屋は、制度規制で酒小売店に販売が出来なかった。私も「卸業の将来性を危ぶんでいたもので、わが親友の「康ちゃん」に酒小売免許を取らせ、間接的に小売をした。その店が今の株サカタ三時を戻すが、幼児の頃、私は、祖母に育てられていた。近所や、通っていた常盤幼稚園、入学した近くの、貞教尋常小学校の友達には、お母さんお父さんがいるのにと変やなあと思っていた。でも、祖母が、可愛がってくれ淋しいとは、一度も思わなかった。国民学校二年生学期末、祖母に、奥座敷の仏前で、病気で実家へ帰っていた「お母さん」が戻って来ると告げられ、翌日、その実家へ「丁稚のマアチが連れて呉れた。庭先の縁側で会い、『ヨシちゃんか、大きくなったなあ、お母さんやでえ。淋しい想いをさせて堪忍え』と言われた。ワ〜と言って抱き付いた。おばあちゃんと違う、良い香りが

した。その後、一六才迄「実母」だと思っていた。古くからの読者の方は前に記してご存知かと思うが、本欄は、改めて「自伝」の心算で記しているのをご了承戴きたら、今や八三歳だが、この「とんからりん」入力も、裸眼で入力している。両眼共「」。

## 天気 月三三

今年の六月は、前半が晴れ、二十日の夜から二十一日の昼にかけて大雨になりましたね。次の日からは、朝は曇るものの雨は降らず、昨夜のことは梅雨の雨だったのか、それとも台風だったのかと頭を傾げてしまっています。そんな日々です。

新聞を開きますと、必ず天気図を見ます。誰しもがテレビ欄と同等に確認するところですね。昨今の天気は非常に波があり、等圧線や前線、気圧などを追っていくのにはとても興味深いです。このお話は、あくまで紙新聞のことで、デジタルの方ではありません。一日に一度家

## スター ポイント

東山七条出身のフリースタイルダンス、フリースタイルダンスが、デビューをさせて



2008年5月。皆様の温かいご声援をいただき、来年は十周年を迎えます。フリースタイルダンスもこの十年で大きく成長を遂げました。私が二人の「ネジャ」をさせていたのだくようになった頃が、はるか昔のことのようでした。当時の写真や映像を見ると、懐かしさを感じます。

フリースタイルダンスは今まで、歌のないポップスをコンセプトに、インストゥルメンタルという歌詞ない音楽を創作してきました。言葉という制約がない分、聴き手の自由な解釈で楽しんで戴く、そんな音楽を送り届けてきたこの十年。言葉に頼らない音楽は、世界を越えて多くの人の耳に届けることができましたが、その反面、人々の記憶に深い印象を残すことが難しくもありまし

十周年を前に、フリースタイルダンスは次の十年を見つめて、新たな挑戦に臨むことにしました。今まで禁断としてきた歌詞のある音楽を、これからの活動の主軸にしたい。この思いを、今までは自分たちの思いや届けたい世界観を、音楽のみで表現してきたフリースタイルダンスにとつて、言葉でそれを表現するのはなかなか難しいことです。うまくいくかどうか、まったくわかりません。ただ、自分たちの音楽への飽くなく挑戦として、新たなスタートポイントに立つことにしました。

一人でも多くの人の心に音楽を届けるには、歌という言葉のあふれる音楽でないと難しいのが今の時代。明確な言葉が人々の心に共感を生み、ともに歌うという行為が人々の心を解放するからなのではない。どのような音楽を作ろうと、フリースタイルダンスの変わらぬ思いがあります。それは、自分たちの音楽で人を笑顔にすること。すべては誰かの笑顔のために。フリースタイルダンスの新たな挑戦に、引き続き温かく見

## 編集後記

先ずこの7月号、一度殆ど大失力したのだが、保存方法を間違えて、行方不明になった。

▼もう14年書き続けて、こんな初歩的なミスは、初めて。何でや〜と悩んだ。答えは直ぐ出た「痴呆症」がヤッテ来たのだらう。

▼一生懸命探してみたら、見つからない。幸いにして、投稿文は、別に保存していたが、私の文が、探し続けたが、行方不明。

▼だと言つて辞めれば、音も立てない。こ奴痴呆症は、もつと早足になろうという気がする。ご迷惑をもう暫くご辛抱戴きたい。

▼長年パソコン付き合ひ、こんなケースは、始めて。元々、理数系で無い人間で、曖昧なことを良くするが、それが、人間が本質で、自然なのだろうと思う。

▼あんまり考え過ぎると、パソコン曰く不可解と、音羽に清水の滝に飛び込む。むことに気がねない。

▼子供時代、欲しいものは、手に入れるまで、ネバッテ祖母等を困らせた。其の性根は、この歳になつても治らない。

▼よう様な、悪いようなその様な男の、とんからりんでもお読み戴ける皆さんが居られる。スミセンが、もうもう八年だけご辛抱を。治